



3つの密(密集・密閉・密接)の回避

インフルエンザにも注意 一人一人ができる感染対策を

新型コロナウイルスは、誰もが感染する可能性があります。自分自身や大切な人を守るために、マスク着用や3つの密(密集・密閉・密接)の回避、手洗いなど、基本的な感染予防対策を徹底しましょう。

また、これからの季節は、インフルエンザウイルスへの感染予防にも注意を払う必要があります。

特集 「健康」と「暮らし」を守る
北播磨総合医療センター

「新型コロナ」から日常を取り戻すために

北播磨総合医療センター ☎88-8800

私たちの生活を変えた新型コロナウイルス感染症。世界保健機関が世界的流行と位置付けてから半年が経った今、新たに分かったことなどについて、北播磨総合医療センター感染対策室室長の高月清宣先生に伺いました。

新型コロナウイルスが持つ「やっつかない性質」

世界各国で新型コロナウイルスが蔓延し、日本国内でも感染者が8万人を超える(令和2年8月時点)など、長期にわたり厳しい状況が続いています。

新型コロナウイルス感染症がここまで広まった理由としては、「感染しても症状が目立ちにくいこと」、「感染してから症状が出てくるまでに時間がかかること」があります。

一般的にインフルエンザや他のコロナウイルス(2002年ごろに流行したSARSなど)は、症状が分かりやすいため、感染者を特定しやすく、感染者を隔離するなど、感染拡大を抑え込む対策を取ることができます。一方、新型コロナウイルスは症状が無くても、ウイルスを保有する場合に感染を広げる可能性があるため、感染拡大を食い止めることが難しいと考えられています。

より感染予防を心がけた生活をお願いします。

三木市独自策 65歳以上の方などはインフル予防接種が無料!

三木市に住民票がある65歳以上の方や重症化の危険性が高い方は、インフルエンザの予防接種を無料で受けられます。

詳しくは広報みき10月号11ページまたはホームページをご覧ください。▲ホームページはこちら

☎(市)健康増進課(総合保健福祉センター内)
☎(市)健康福祉課(吉川健康福祉センター内)

新型コロナウイルスを正しく恐れる

現時点では、新型コロナウイルスは撲滅できるウイルスとは考えられていません。

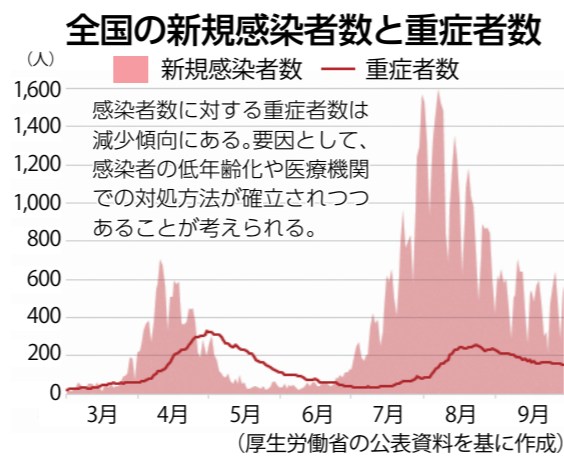
コロナ禍の収束に期待がかかるワクチン開発については、各国において異例のスピードで進められています。ただ、ワクチン開発は安全が最優先であることを忘れてはなりません。有効性・安全性が確認されたワクチンの完成をはじめとする収束の道筋が見えるまで

主な侵入経路は目・鼻・口

ウイルスは目、鼻、口、気道などの粘膜から体内に侵入します。その後、1〜14日(一般的には約5日)の潜伏期間を経て増殖し、発熱や咳をはじめとする呼吸器症状、頭痛、倦怠感などの症状があらわれます(無症状の場合あり)。

感染経路は、くしゃみなどの「飛沫感染」と、ウイルスがついた部分に触れて感染する「接触感染」であることが分かっています。

人は、無意識に顔を触っています



また、コロナ禍において深刻な影響を受けている産業や教育をはじめとする社会活動についても感染対策を行いながら、できる限り維持していく必要があります。

新型コロナウイルス感染症による将来への影響を最小限にとどめ、一日でも早く日常を取り戻すためにも、公的機関が提供する正しい情報を持ち、冷静な行動をとっていきましょう。

北播磨総合医療センターの感染症対策

院内での感染防止対策に奔走した感染対策室副室長に伺いました。

医師や看護師、計4名が感染

北播磨総合医療センターでは、国内で新型コロナウイルスの感染が確認された今年1月ごろから、対策の準備を行ってまいりました。そのような中、3月10日に当センターで感染者が確認され、翌日以降にも新たな陽性患者が確認されました。

一人目が確認された後、診療を続けるか否かを迫られました。

当センターは地域の中核病院であるため、休診することで他院に影響を及ぼす可能性があったこと、また当時は、神戸市内の病院で病床が不足していたこともあり、当センターの「地域医療を支える」という使命を果たすため、診療継続の道を選択しました。

厳しい状況下ではありましたが、たくさんの方から医療物資の寄附や応援の声をいただき、その後の大きな励みとなりました。今後も地域の中核病院としての役割を果たしていきます。

万全の感染症対策で、皆さまをお迎えします

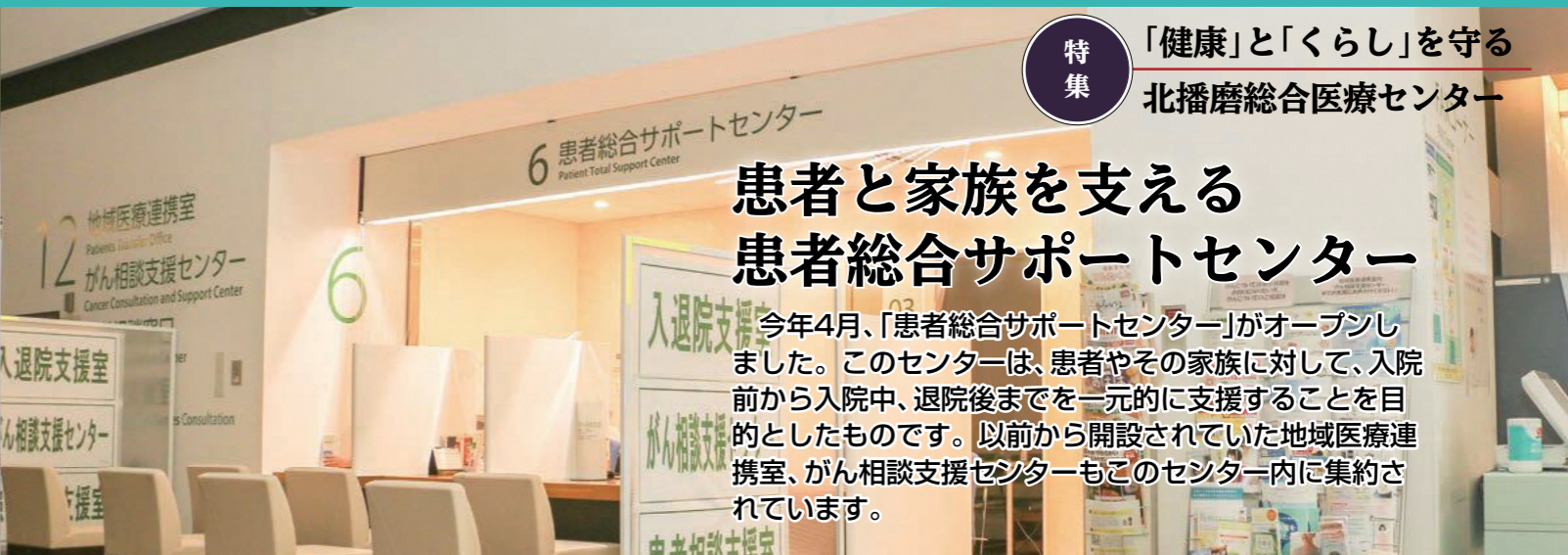
北播磨総合医療センターでは、感染拡大防止に万全を期すため、主に次の対策を行なっています(一例・令和2年9月末時点)。

- ▶ 感染の疑いのある患者と一般外来患者との動線を分離するため、屋外スペースに「臨時外来」を新たに設置
- ▶ 来院する全てのお方および院内スタッフのマスク着用を徹底
- ▶ センターの入口と出口を分け、来館者に対して手指消毒、検温、問診を実施
- ▶ 入院患者との面会を禁止



高精度で安全・安心を提供する 放射線治療センター

放射線治療は、外科手術・薬物療法とならぶ、がん治療の3本柱の一つです。より多くの患者へより質の高い放射線治療を提供するため、4月に「放射線治療センター」を設置しました。常勤医師・医学物理士が着任し、より安全で精度の高い治療を提供しています。



患者と家族を支える 患者総合サポートセンター

今年4月、「患者総合サポートセンター」がオープンしました。このセンターは、患者やその家族に対して、入院前から入院中、退院後までを一元的に支援することを目的としたものです。以前から開設されていた地域医療連携室、がん相談支援センターもこのセンター内に集約されています。



放射線治療センター
医学物理士
中山 雅央 先生



放射線治療科
医師
西川 遼 先生

「切らずに治す」がん治療
がん治療では、3つの治療方法（外科手術・薬物療法・放射線治療）からがんの種類によって適切な方法を選択し、それらを組み合わせることで、最大の治療効果を得ることが出来ます。
放射線治療は放射線を照射してがん細胞を傷つけ死滅させる治療法です。外科手術のように臓器を切除しないため、臓器の機能や形態を温存できることが最大の特徴です。
また、技術が進歩し、放射線の照射をより高い精度で行えるよう

「入退院支援室」は、入院を予定している方が入院から退院までをイメージし、安心して入院生活を送れるよう支援しています。
まず、入院前に病歴や薬の服用の有無などを伺います。その情報を元に、薬剤師や管理栄養士をはじめ、認定看護師や病棟看護師と連携し、患者に合った入院環境や看護体制を整え、スムーズな入院へとつなげます。
「患者相談支援室」では、病状をはじめ、入院や通院、生活全般への不安などを抱えている方を支援しています。
看護師やソーシャルワーカーが、医療・福祉などの支援を必要としている方やその家族の相談に対応し、内容によって相談者を支援する制度やサービスを紹介します。
このたび開設された放射線治療センターでは、常勤医師に加えて治療計画の検証や治療機器の品質管理を行う医学物理士が着任しました。新たな技術の導入や安全面の強化を進めるとともに、他の診療科との連携を深めることで、がん治療のさらなる質の向上につなげます。
治療にあたっては、専門医が診察を行い、種々の検査結果を元に他の診療科とも連携しながら適切な治療を提案します。

「入退院支援室」は、入院を予定している方が入院から退院までをイメージし、安心して入院生活を送れるよう支援しています。
まず、入院前に病歴や薬の服用の有無などを伺います。その情報を元に、薬剤師や管理栄養士をはじめ、認定看護師や病棟看護師と連携し、患者に合った入院環境や看護体制を整え、スムーズな入院へとつなげます。
「患者相談支援室」では、病状をはじめ、入院や通院、生活全般への不安などを抱えている方を支援しています。
看護師やソーシャルワーカーが、医療・福祉などの支援を必要としている方やその家族の相談に対応し、内容によって相談者を支援する制度やサービスを紹介します。
このたび開設された放射線治療センターでは、常勤医師に加えて治療計画の検証や治療機器の品質管理を行う医学物理士が着任しました。新たな技術の導入や安全面の強化を進めるとともに、他の診療科との連携を深めることで、がん治療のさらなる質の向上につなげます。
治療にあたっては、専門医が診察を行い、種々の検査結果を元に他の診療科とも連携しながら適切な治療を提案します。

「切らずに治す」がん治療

患者総合サポートセンターの 4つの役割

- 地域医療連携室** 医療機関や介護施設、行政などとの連携や広報活動を実施
- 入退院支援室** 入院予定患者の情報を共有するとともに、院内多職種が連携して入退院支援を実施
- 患者相談支援室** 看護師・ソーシャルワーカーを配置し、看護や介護などさまざまな相談に対応
- がん相談支援センター** 専門相談員が、がんに関する不安や悩みなどの相談に対応

医療・福祉・看護相談など
切れ目のない支援を提供
患者総合サポートセンターは、退院してからも住み慣れた地域で療養生活を継続できるように、患者やその家族に対し、医療・福祉・看護相談など切れ目のない支援を提供しています。患者やその家族を支える場所を一元化しているのは北播磨圏域では当センターだけです。

多職種のスタッフが連携し 入院予定の患者を支援

「入退院支援室」は、入院を予定している方が入院から退院までをイメージし、安心して入院生活を送れるよう支援しています。
まず、入院前に病歴や薬の服用の有無などを伺います。その情報を元に、薬剤師や管理栄養士をはじめ、認定看護師や病棟看護師と連携し、患者に合った入院環境や看護体制を整え、スムーズな入院へとつなげます。
「患者相談支援室」では、病状をはじめ、入院や通院、生活全般への不安などを抱えている方を支援しています。
看護師やソーシャルワーカーが、医療・福祉などの支援を必要としている方やその家族の相談に対応し、内容によって相談者を支援する制度やサービスを紹介します。

医療の専門家が患者と その家族をサポート

「患者相談支援室」では、病状をはじめ、入院や通院、生活全般への不安などを抱えている方を支援しています。
看護師やソーシャルワーカーが、医療・福祉などの支援を必要としている方やその家族の相談に対応し、内容によって相談者を支援する制度やサービスを紹介します。

がん診療連携拠点病院として 地域社会にさらなる貢献を

がんは2人に1人がかかる病気と言われ、全国における死亡原因の第1位。しかし、初期の段階で発見し、治療を行えば高い確率で治癒が期待できます。
北播磨総合医療センターでは、患者に地域完結型での切れ目のない医療を提供するため、院内はもちろん、地域の医療機関と連携して、がん診療体制を充実しています。また、手術や化学療法、放射線治療などを組み合わせた集学的治療や、病気に伴う心や体の痛みを和らげる緩和ケアの提供などを実施。その他にも、がん予防や最新治療についての講演会などを行っています。



健康管理センター センター長
がん相談支援センター センター長
足立 秀治 先生

お気軽にご相談を

受診についての相談や、医療・福祉・介護・退院支援などに関する相談を受け付けています。

北播磨総合医療センター
☎88-8800
FAX 62-9931
【受付時間】
平日 午前8時30分～午後5時

これらの取組が評価され、当センターは昨年4月に「兵庫県指定がん診療連携拠点病院」として認定されました。この認定を受けるには、専門的ながん診療の提供をはじめ、地域でのがん診療連携協力体制の整備など、数々の厳しい要件をクリアし、都道府県知事の認定を受ける必要があります。
少子高齢化の影響もあり、がん患者は増加の一途をたどっています。その中で、がん対策の重要性など、当センターの役割はさらに高まると考えます。
これからも、患者やその家族に安心・満足していただける医療に努め、地域社会に貢献してまいります。